

平成30年度実施 協働事業

協働事業審査会 公開プレゼンテーション

◆会場 ひらつか市民活動センター

◆開催日 平成29年10月7日(土)

目次

- 公開プレゼンテーション スケジュール・・・・・・・・・・・・ P1

- 市民提案型協働事業 事業提案書
 - ①不登校・ひきこもり改善・自立支援事業・・・・・・・・・・・・ P2

- 行政提案型協働事業 事業提案書
 - ①ひらつか市民活動センター協働運営事業・・・・・・・・・・・・ P6

平塚市

平成30年度実施協働事業 公開プレゼンテーションスケジュール

●開催日：平成29年10月7日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時間	内容
14:00 (会議室)	開会 ・協働事業審査会委員長あいさつ ・協働事業審査会委員紹介 ・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
14:10	市民提案型協働事業プレゼンテーション ※提案団体プレゼン（5分）、質疑応答 （継続提案） ①不登校・ひきこもり改善・自立支援事業 行政提案型協働事業プレゼンテーション ※担当課説明（3分）、提案団体プレゼン（5分）、質疑応答 （継続提案） ① ひらつか市民活動センター協働運営事業
14:55	事務連絡
15:00	閉会予定

(宛先)

平塚市長 殿

団 体 名	特定非営利活動法人ぜんしん
代 表 者	柳川 涼司
事業担当課	健康・こども部 青少年課
提 案 型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成 28 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	ゲームやパソコン(ネット)依存の影響により不登校やひきこもりに陥り、悩んでいる子どもたちの存在が目立ち始めている。また、そうしたゲームやパソコン好きな子を持つ保護者は、我が子を自立させる為にどのように接するべきか悩んでいる。そこで、本事業では、ゲームで日本一の経験を有する元当事者や元当事者親子のサポーターと市の相談員がフリースペースを設け、挫折や回復の体験談や支援機関等の専門情報を提供することで、依存状況にある彼らの自立を支援することを事業の目的とする。	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必 要 性	既存の行政部門で悩みの解決策を見出せない当事者親子を自立(回復)へ導くには団体の培った不登校・ひきこもり支援のノウハウを活用することが望ましい。協働によりワンストップでの支援が実現できる。
	メ リ ッ ト	(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) ・医療機関等と異なる元当事者ならではの視点による助言が得られる ・他機関にはない、ゲーム感覚による支援が受けられる ・連携している市民活動団体や支援機関の紹介を受けることが出来る
		(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) ・事業実施に要するフリースペースを確保できる ・「広報ひらつか」ほかにて支援活動の周知に協力いただける ・市が実施している相談業務のネットワークに参画できる (市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) ・ゲームやパソコンに熱中して不登校やひきこもりに陥っている子どもや保護者に対する支援の手法を市の専門職員と共有することが出来る ・市内諸機関で解決策を得られない相談者へ支援の手を差し伸べられる
④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校・高校中退・ひきこもりの経験者と市の相談員が手を組むことで、悩みを抱えている親子が安心して本事業の相談に参加できる ・子どもたちが受け入れやすい「ゲーム感覚の支援法」を活用する為、当事者は、楽しみながら自立(復学・進学・就労)を意識できる ・過去4年間、市の助成を受け、居場所事業等を展開し、培ったノウハウ(相談者が心を開いて話し易い空間づくり等)を本事業でも活用できる ・ゲーム等の依存以外に悩む親子の自立支援にも応じることが出来る ・事業を通して団体だけでなく、市の相談員の相談スキルの向上に繋がる ・当事者の親子同士が交流し、助け合える機会を提供できる 	

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>[概要]</p> <p>当事者親子が集い、相談・意見交換が出来るフリースペースを用意する。また、同所では、カードゲーム等の遊びやミニ・パソコン講座等を参加者が自由に選択できる環境を設け、自立に向かう為の支援を展開していく。</p> <p>[具体例] 親：市相談員が対応、子：ぜんしん担当者がゲームで心を開く</p> <p>※相談や遊び・講座等は当日、参加者が自由に選択できるようにする</p> <p>[計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール:年6回 (H30年5、6、9、11月、H31年1、2月の土曜) ・時間:10時から17時 場所:青少年相談室 ・人員配置:ぜんしん相談員(元当事者)3名~5名、市相談員2名 ・対象者:主として20歳迄の青少年(必要に応じて20歳以上)とその保護者 ・予定参加人数:8名/回×6回 ・備品:ゲームやパソコン等は、ぜんしんが用意
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・ひきこもり等を経験した相談担当者を提供 ・支援手法(ノウハウ)の提供 ・ゲームやパソコンほか支援機材の提供 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場の確保 ・相談員の対応 ・広報協力(各種媒体の活用)
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>・参加者のニーズに合わせて、団体が連携している次の市民活動団体等と支援活動を展開することを計画している。また、ゲーム等の依存以外の問題がある場合は、以下の団体等を紹介することが可能である。</p> <p>(1) NPO 法人コス援護会 (2) NPO 法人林^oートハウス ワン・ピース (3) 親の会すばる (4) 家族の会かたつむり (5) 子育て応援ネット虹のつばさ ほか</p> <p>・当事者の紹介や支援活動の周知協力には以下の機関を予定している。</p> <p>(1) 神奈川県立青少年センター (2) 神奈川県平塚保健福祉事務所 (3) 平塚市教育委員会 (4) 平塚市子ども教育相談センター (5) 平塚市児童相談所 (6) 平塚市内各図書館 ほか市内外の団体・機関</p>
<p>⑧成果目標(目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の不登校児童・生徒数の状況(平成27年度) <ul style="list-style-type: none"> a) 小学校 64人 b) 中学校 187人 計: 251人(学校教育部・教育指導課) ・市内のひきこもり者数(推計・平成28年1月/15~39歳): 約1,100人(人口: 69,786人×1.57%※1) ※1: 内閣府調査(2016年)出現率で算出 <p>○成果目標値: 参加者 8名×6回=48名</p> <p>上記の該当者に参加いただくことで自立(回復)への意欲を高めていきたい</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>子ども・若者育成支援推進法</p>
<p>⑩事業実施以降の展望</p> <p>事業実施後の具体的な展望や、提案事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>■ 次年度以降も双方で実施 (□ 提案型協働事業 ■ 提案型以外)</p> <p>□ 団体が単独で実施 □ 行政が単独で実施</p> <p>□ 事業は今年度のみ予定 □ その他()</p> <p>(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)</p> <p>事業実施後は、事業に参加した人のニーズを踏まえて、会場に用意する遊具・機材だけでなく、人員やプログラムを再検討し、当事者が参加しやすい環境を整備しながら、委託事業として引き続き、当事者親子の自立(回復)を支援していきたい。事業の実施回数は、団体と担当課にて協議し、検討する。</p> <p>今後、参加者が支援の継続を求める場合は、団体の定例活動や青少年相談室の相談事業等へ誘う。参加者が、元当事者らとの出会いを通して自立(復学や就労)に向け、更なる気づきが得られるようにサポートしていきたい。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジン ゼンシン 特定非営利活動法人 ゼんしん		
②所在地	〒254-0026 平塚市中堂2番22号		
③ホームページ	http://ameblo.jp/zenshin-maekatsu ※ブログを公開中		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	柳川 涼司 (役職) 理事長	
	電話	(連絡可能な時間帯) 17時以降	
	FAX		e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	平成 23 年 10 月 (法人格取得年月 平成 24 年 9 月)		
⑥会員の状況	個人会員	46 人 (うち平塚市民 21 人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>1) 居場所の提供：不登校・ひきこもり当事者親子が集い、意見交換等を行う。 ・平成 27 年度 延参加者：127 名 ・平成 28 年度 延参加者：151 名</p> <p>2) 就労支援相談会&プチ・パソコン講座の開催：ひきこもりやニート状態にあり、就労に悩む親子へ相談会や就職後に役立つパソコン講座等を開催。 ・平成 27 年度 延参加者：156 名 ・平成 28 年度 延参加者：162 名</p> <p>3) 講演会の開催：臨床心理士ほか講師を招き、実践的な支援手法を学ぶ。 ・平成 27 年 2 月 参加人数：65 名 ・平成 28 年 2 月 参加人数：41 名</p> <p>4) 訪問支援：当事者親子の各家庭他へ訪問し、個別相談やパソコン講座を実施。 ・平成 27 年度 236 件 ・平成 28 年度 191 件</p> <p>5) 受託講座：コミュニケーション・人間関係講座(神奈川県) H27 年 74 名、H28 年 30 名</p>		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	① 理事長	柳川 涼司	事業全体の総括(産業カウンセラー)
	② 副理事長	竹内 亮	フリースペースの総括、ピアサポーター
	③ 理事	手塚 明美	当事者・支援者の紹介、運営助言
	④ 理事	坂田 美保子	当事者・支援者の紹介、運営助言
	⑤ 理事	佐藤 五十男	当事者・支援者の紹介、運営助言
	⑥	大倉 香澄	ピアサポーター、チラシ製作、受付
	⑦	篠原 良美	ピアサポーター、企画考案補佐、受付
	⑧	木村 由紀	ピアサポーター、広報協力
	⑨	鈴木 基倫	ピアサポーター
⑩	柳川 範子	会計管理、収支決算報告の作成	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	426,980円	市の支出	422,000円
		団体の支出(他の収入等)	4,980円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 422,000	
団体の支出	4,980	団体の会計より支出
事業収入	0	参加費は徴収しない
収入合計	A 426,980	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価など具体的な内容
謝金	255,000	255,000	総括責任者(産業カウンセラー/心理相談員)： 7.5+1.5H×6日×1人×1,100円 同責任者の講座プログラムや資料等の作成・準備 および広報活動費：5H×12日×1人×1,100円 元当事者スタッフ：6H×6日×3人×800円 同スタッフの事前打合せ、準備・片付けと振り 返り：1.5+1.5H×6日×3人×800円
事務用品費	42,980	42,980	フリースペースや講座に活用する写真・資料印刷 向けプリンター用インク(4色)：5,280円×3組 サポーターや参加者が用いる文房具類(カラーボール ペン8本、ノート6冊、名札6組等)：6,000円 広報用品(封筒、クリアファイル、宛名ラベル等)：13,380円 軽微な遊具(パーティーゲーム3,700円×1組、 ボードゲームほか)：7,760円
印刷製本費	65,760	65,760	告知パンフレット/A4カラー：3.5円×1,000枚×6回 大判ポスター/B1カラー：1,865円×4枚×6回
旅費・交通費	28,860	28,860	元当事者スタッフ：(480+860+1,080+1,300円)×6 雨天時パソコン等の機材運搬タクシー代6,540円
通信運搬費	29,400	29,400	行政機関や他団体等へ事業告知に用いる郵便費用 定形外郵便：140円×35組×6回
食糧費	4,980	0	参加者に提供するお茶菓子代：830円×6回 ※団体の会計より支出
支出合計	B 426,980	D 422,000	

注) 収入合計Aと支出合計B、及び、市の支出Cと支出合計Dは同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長

団 体 名	特定非営利活動法人湘南 NPO サポートセンター
代 表 者	坂田美保子
事業担当課	協働推進課
提 案 型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成29年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>【事業目的】 平塚市における市民活動の活性化と推進を図るとともに、以下のような目的のもと、2年後の民営化を前提に平塚市と協働でセンター運営を行う。</p> <p>(1) 地域の未来に対する見通し、地域の市民活動に対する展望を持ち、長期的な視野に立って事業や活動をデザインする。 (2) 市民活動の実態を地域社会に広く発信する。 (3) 地域資源の発掘・開発とそのコーディネートを行う。 (4) 協働のコーディネーターとして活動する。</p> <p>【事業の必要性】 平成29年度から平塚市と協働運営を開始し2年目を迎える。これまで公営で培ってきた施設管理のノウハウを継承すると共に、必要とされている「多様化する市民活動に対し、当事者性、専門性、柔軟性を持ってよりニーズに即した支援の場や仕組みの提供」に応えることで市民サービスの向上につながると思う。29年度より力を入れている「相談」では組織運営や団体の立ち上げについての相談が増え、ニーズのあることを実感している。30年度は相談機能の更なる充実に加え、地域の課題解決につながる多様な資源をコーディネートし、団体の基盤強化につながる対応を強化する。NPO・市民活動と地域活動との連携、「公民館」、地域福祉の拠点「町内福祉村」、大学・企業等との連携も引き続き対応していく。</p>
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市	<p>必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでセンターに蓄積されてきた団体情報や事務管理の仕組みは協働の手法を使うことにより無理なく引き継ぐことができる。 地域課題を解決するには、関連する公共政策分野を活用しながら地域に即した実効性ある取り組みを推進して行く必要があり、そのためには、市の情報や実務ノウハウをベースに市民の意欲や行動力を連携させて形にして行くことも重要である。市民力を高め、持続性ある地域社会づくりを市民活動センターが推進するには、団体単独ではなく市と協働で行うことが重要である。

<p>のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>（市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体運営の広範にわたる悩みを、市民目線・専門性を活かした柔軟な対応や助言等、より具体的な専門性の高いサービスを受けられる。 ・「行政・企業・大学・NPO・地域等、様々な組織をコーディネートする」ことで、団体活動がより活性化され、センターの支援機能を利用する機会も広がる。 <hr/> <p>（団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで市民活動団体や地域活動団体へ向けたサポート事業を行ってきたが、市民活動センター運営事業が加わることで、より多くの団体から信頼を得ることが出来る。 ・平塚市との協働事業ということで広報協力はもとより、多方面からの信用と信頼が担保される。 <hr/> <p>（市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など）</p> <p>当事者性・専門性を活かした中間支援組織としての機能を活かすことによって、これまで課題とされてきた諸処の問題の解決が進み、市民活動の活性化が進むと考える。</p> <p>自治会をはじめとする地域活動団体・公民館・町内福祉村等との連携、また企業・大学等の連携が強化されることで協働のまちづくりが推進される。市民活動団体や地域活動団体が活発に活動することによって平塚市全体が生き活きとしたまちになり、「選ばれるまち・住みよいまち」となることが期待できる。</p>
--------------------------------	--

<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>「市民活動の活性化を図り、地域課題の解決をサポートする」</p> <p>(1) 社会情勢の変化、少子高齢化の中では、市民参画から市民力主導でのまちづくり、地域課題解決が急務であり、その担い手となる人材育成と支援体制（支援組織、支援場、情報提供、コーディネート等）を整えて行く。また、連携力を活かした課題解決の取り組みのサポートやそれらの事例を他へ発信し、つなげる役割を行う。</p> <p>(2) 当団体は、これまで平塚の市民活動・地域活動の活性化に向けた様々な事業実績と、自治会や公民館、町内福祉村などの地域活動団体とのネットワークの形成により、多くの地域課題を認識する機会を得た。そのネットワークや経験を活かし以下の事業を提案する。</p> <p>1. 多様なネットワークを活用し、団体のニーズに即した柔軟な相談対応</p> <p>(1) アンケートによる満足度調査の実施。相談後のサポート体制を強化しリピート率の向上。公民館や町内福祉村等との連携により出張相談会等を開催し、新規ニーズへのアプローチを計る。</p> <p>※PC無料相談は、ひらつかITサポートとの連携により実施。</p> <p>(2) 「ひらつか地域づくり市民大学」講座により構築した、市内自治会・公民館・町内福祉村等とのネットワーク、地域の人脈を生かした対応が可能。</p> <p>2. 団体活動に必要な情報収集と分析及び発信</p> <p>(1) 地域・団体の情報収集 アンケート・現場取材・聞き取り調査の実施。 平成29年9月よりチームメンバー（ボランティア）の募集を開始。 ※29年5月実施したアンケートでは81団体146名の回答を元に専門相談コーナーを開始した。</p> <p>(2) 市民活動・地域活動に役立つ情報の収集と発信 助成金情報だけでなく、ヒト・モノ・コト、地域課題の情報収集を行う。情報誌・HP・SNSを活用、またFM湘南ナパサとの連携「こちら市民活動情報局（仮称）」、Webを通じて市内及び市外へと発信する。29年度は当団体のHP・SNSを活用して実践、リーチが増加している。</p> <p>(3) 市にかかわる統計データベース、可視化情報の提供</p> <p>3. まちづくりの拠点としての「場」の運営</p> <p>(1) 市民活動の活性化を目的に、「きっかけづくりの場」「交流の場」「学びの場」。多様な主体が集まる「まちづくりミーティング」（仮称）などを実施。</p> <p>(2) 市民活動団体の自立化支援や地域のソーシャルビジネスやコミュニティビジネスのプログラムの提供（※連携団体：NPO法人都市計画家協会 他） ※H29.6.18「スタート交流会」18団体42名参加 新しいつながりができた。</p> <p>4. 多様な組織との連携協働の推進</p> <p>(1) 市民交流サロンの実施（市民活動団体・地域活動団体との情報交換など）</p> <p>(2) パートナリシップミーティング（仮称）の実施（NPO・企業・大学・行政等の交流促進及び協働事業の実践をサポート）当団体が持つネットワークにより多様な人材を巻き込み「まちづくりのプロデュース機能」を高める。</p>
---	---

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>【概要】</p> <p>平成 29 年 4 月から本格的にセンターの協働運営を開始した。約 4 か月が経過する中でいくつかの緊急課題が見えてきた。まず喫緊の課題解決に向け、昨年提案した事業内容の見直しを図りたい。また「相談機能の向上」や「コーディネート機能の向上」については引き続き強化する。</p> <p>【計画】</p> <p>(1)センターのホームページの現状の課題と改訂構築について</p> <p>【緊急課題①】</p> <p>現在のセンターのホームページは平成 15 年開設当初にスタッフが手作りで構築してきた経緯があるが、さまざまな問題が浮上してきていることが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバーについて、SCN の無料サーバーを利用。ブログ機能利用のため容量が非常に小さく、現状の HP の情報を維持できる容量ではない。 ・更新作業に手間がかかり、バグが起きると修正作業に大幅な時間を要し、スタッフの仕事の効率が悪い。また現在担当しているスタッフが雇用満了となるため、今後の運用が非常に困難な状況である。 ・IT や SNS を活用し、情報発信力を高めることが本事業の目的達成の一つでもあるが、現状のホームページではコンテンツの整理も含め大幅な見直しが必要である。 <p>【ホームページの改訂】</p> <p>以上のことからホームページの改訂については 31 年度を目標としていたが、緊急性の高い課題であることから前倒して実施したい。利用者にとって見やすく、タイムリーな情報を発信することでより若い世代にも活用してもらえらるホームページを構築する。また更新作業を行うスタッフにとって使いやすさは重要である。より簡易な方法で更新ができるようにしたい。</p> <p>【スケジュール】</p> <p>H29.9～ HP 作成チーム結成、センターHP の目的について意見交換 H30.1～ 情報とコンテンツの整理 H30.4～ 制作者との情報交換、情報提供を行う H30.6～ 新規 HP の公開</p> <p>(2) 渉外（営業）活動の実施と強化</p> <p>【緊急課題②】</p> <p>市民活動や地域活動を活性化するには地域エリア内外の情報を収集し、必要と思われる人や団体を結びつけるコーディネート力が重要である。窓口で座っているだけでは情報を掴むことは難しく、コーディネート力もなかなか向上しない。現状ではそれを担う人材も不足しており、協働が進まない要因でもあると言える。相談機能の強化も含めて実施する。</p> <p>【人員の配置】</p> <p>そこで、渉外（営業）活動を行う人材の配置やスタッフの育成に向けた体制を整え、地域・団体・行政・大学・企業との情報交換を積極的に行うことで連携・協働を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ（非常勤 1～2 名）を窓口勤務とのローテーションで配置。また情報収集チームと連携を組み常に情報の共有を行う。 <p>尚、常勤スタッフ（2 名予定）も同様に対応する。</p>
--	--

	<p>(3)スタッフの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤スタッフ2名（7時間勤務週5日） 内訳：統括責任者1名、他1名 ・非常勤スタッフ4名（5.75時間勤務（休憩1時間）週2日～3日） 本事業提案が採択された後に新規雇用（常勤1名、非常勤2名） <p>※市スタッフは、常勤1名（5.75時間勤務 週5日）、非常勤4名（5.75時間勤務 週2～3日）を配置</p> <p>【人員配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が雇用する常勤・アルバイトとともにシフト制でセンターの管理運営・事業運営に携わる。 <p>【スタッフ育成の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援力を高める研修への参加（内部研修：情報収集・発信のための市民ライター講座、NPO基礎講座、コミュニケーション講座・外部研修：協働、コーディネーター養成講座等）、OJTによるスキルアップの向上 <table border="1" data-bbox="478 790 1442 1451"> <tr> <td>全体スケジュール</td> <td>H30年4月～H31年3月</td> </tr> <tr> <td>企画プランニング</td> <td>事業計画策定(H30.1月～3月)拠点機能を活かした「場」づくりの企画設計、1年間の振り返り</td> </tr> <tr> <td>スタッフ育成</td> <td>相談ケース会議実施（月1回程度）、スタッフ会議 外部研修（8月以降）新スタッフ募集及び研修（1月～）</td> </tr> <tr> <td>プロモーション</td> <td>事業計画開示 HP制作準備及び公開(H30.6月を目途) SNS発信 新情報誌発行</td> </tr> <tr> <td>事業運営</td> <td>窓口業務（常勤2名、非常勤4名を配置 既存スタッフとシフト編成を組む） 専門相談（月1～2回程度） 講座の開催(6回程度：団体組織基盤強化を中心に実施) ※きっかけの「場」づくり、まちカフェ(仮称)の実施 経費の関係上講座との兼ね合いを含めて行う 渉外(営業)活動の実施（ネットワークづくり強化）</td> </tr> <tr> <td>情報収集・発信 情報誌発行</td> <td>1. 情報収集チーム 2. 情報誌編集チーム 3. ホームページ企画チーム発足(H29.9月) 持続可能なチームづくりを目指す</td> </tr> </table>	全体スケジュール	H30年4月～H31年3月	企画プランニング	事業計画策定(H30.1月～3月)拠点機能を活かした「場」づくりの企画設計、1年間の振り返り	スタッフ育成	相談ケース会議実施（月1回程度）、スタッフ会議 外部研修（8月以降）新スタッフ募集及び研修（1月～）	プロモーション	事業計画開示 HP制作準備及び公開(H30.6月を目途) SNS発信 新情報誌発行	事業運営	窓口業務（常勤2名、非常勤4名を配置 既存スタッフとシフト編成を組む） 専門相談（月1～2回程度） 講座の開催(6回程度：団体組織基盤強化を中心に実施) ※きっかけの「場」づくり、まちカフェ(仮称)の実施 経費の関係上講座との兼ね合いを含めて行う 渉外(営業)活動の実施（ネットワークづくり強化）	情報収集・発信 情報誌発行	1. 情報収集チーム 2. 情報誌編集チーム 3. ホームページ企画チーム発足(H29.9月) 持続可能なチームづくりを目指す
全体スケジュール	H30年4月～H31年3月												
企画プランニング	事業計画策定(H30.1月～3月)拠点機能を活かした「場」づくりの企画設計、1年間の振り返り												
スタッフ育成	相談ケース会議実施（月1回程度）、スタッフ会議 外部研修（8月以降）新スタッフ募集及び研修（1月～）												
プロモーション	事業計画開示 HP制作準備及び公開(H30.6月を目途) SNS発信 新情報誌発行												
事業運営	窓口業務（常勤2名、非常勤4名を配置 既存スタッフとシフト編成を組む） 専門相談（月1～2回程度） 講座の開催(6回程度：団体組織基盤強化を中心に実施) ※きっかけの「場」づくり、まちカフェ(仮称)の実施 経費の関係上講座との兼ね合いを含めて行う 渉外(営業)活動の実施（ネットワークづくり強化）												
情報収集・発信 情報誌発行	1. 情報収集チーム 2. 情報誌編集チーム 3. ホームページ企画チーム発足(H29.9月) 持続可能なチームづくりを目指す												
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民目線によるきめ細かい柔軟な市民活動団体支援 2. 専門性、当事者性を活かした相談対応、情報提供と発信 3. 市民活動センターの事業企画運営 4. 窓口対応（6名が対応、公営スタッフとのシフト編成） 5. 市民活動・地域活動に必要な情報収集と発信（ボランティアスタッフ募集及び連携による取り組み） <p>(市の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民活動センターの維持管理 2. 市民活動センターの事業企画運営 3. 窓口対応（市民活動団体が担う分を除く） 4. センター運営の円滑な引継ぎ 5. 使用許可、特定設備等利用料金の徴収 												

<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>ひらつか地域づくりサポーターズ、東海大学土木工学科梶田ゼミ、NPO 法人 NPO サポートちがさき、認定 NPO 法人都市計画家協会、NPO 法人ひらつか IT サポート、東海大学、神奈川大学、平塚青年会議所、県内の市民活動支援センター、他</p>
<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>○専門性を付与することによって見込まれる相談件数 H29 年度より 20%増 (新規相談者 10%増、フォローアップによる件数 10%増)</p> <p>○アンケートによる相談事業満足度調査実施 H30 年度 90%目標 H31 年度 100%目標 ※H29 年実績未</p> <p>○交流サロン及びまちづくりミーティング(仮称)等の実施 団体・個人・地域・企業等のマッチング件数→H30 年:5 件目標</p> <p>○センター事業をサポートするボランティアスタッフの登録数 H30 年度末 目標 10 名 (大学のインターンシップ生含む) (内訳: 情報収集・発信チーム 5 名、情報誌編集チーム 5 名)</p> <p>○市民活動情報誌(センターだより)の定期的な発行</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>平塚市市民活動推進条例 ひらつか市民活動センターの設置及び管理等に関する条例 平塚市個人情報保護条例 労働基準法</p>
<p>⑩事業実施以降の展望</p>	<p>■次年度以降も双方で実施 (■ 提案型協働事業 □ 提案型以外)</p> <p>□ 団体が単独で実施 □ 行政が単独で実施</p> <p>□ 事業は今年度のみ予定 □ その他 ()</p>

事業実施後の具体的な展望や、提案事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。

(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)

- ・平成 29 年度は、公営によるセンターの管理運営のノウハウを引き継ぐため 3 名の非常勤スタッフを配置し早期に習得することを視野に入れて対応した。課題（専門的な相談対応、さまざまな主体との連携・コーディネート支援）の対応についての成果は、まだはっきりと見える状況ではないが芽が出てきていると実感している。
- ・新規に採用するスタッフをはじめ、今後のセンター運営を担えるスタッフの人材育成が重要な課題である。研修と O J T の経験を共有し、更なる研鑽を積み、市民にとって必要なセンターとなるようなチーム体制をつくっていく。
- ・当初、立てた 3 年間の計画は、29 年度の運営から見えてきた喫緊の課題に対応するため計画変更を余儀なくされる状況にある。
平成 31 年度（3 年目）は、平成 30 年度事業の検証を行った上で、今後のセンター運営や事業の在り方について市や利用者、関係者等との議論を深めた上で、平成 32 年度からの民営化に向けて準備する。
- ・センター移転計画(平成 31 年度中)が同時進行している中で、新たな課題も生まれる可能性もあり、市との協働関係を密にし、方向性を常に共有することが必要と考える。

【事業の展望】

- (1) 市民活動団体の組織基盤強化、他セクターとのコーディネートを通じ地域課題の解決力の向上に努める。
- (2) 人口減少社会を鑑み地域コミュニティとの連携及び支援に取り組む。
- (3) 次世代につながるきっかけの場づくりを通して若年層の市民活動への参加と参画の拡大に努める。

【具体的な事業】

(1) 情報収集と提供(発信)

市民活動団体や地域活動団体の情報公開と広報及び団体活動に役立つ情報の収集と提供を行う。①情報収集：人が媒介する仕組みの構築②情報発信力（紙媒体・HP や SNS の活用・メディア等の積極的活用）

(2) 相談機能

団体活動の円滑な運営・発展的な展開ができるよう相談機能の充実を図る。協働事業や助成金の申請助言、他セクターとのマッチングやコーディネートは相談を通じて行える体制づくり。

(3) 学習の機会の提供と多様なセクターとの相互交流・拠点機能の強化

市民活動団体が地域課題解決に取り組むためにさまざまな学習の機会を提供する。きっかけの「場」づくり、まちカフェ(仮称)の定例開催。

(4) 調査研究

市民活動の推進を図るには調査・研究が欠かせずセンターには重要な役割があると考えられる。多様な人材や資源を活用して実施(例) ひらつか元気地域づくり事例集)

(5) 人材育成

社会貢献活動に参画する新たな人材発掘/育成/若年層へのアプローチ

(6) 公民館/町内福祉村との連携/企業との連携・協働のコーディネート

2 企画提案団体の概要

① 体名	(フリガナ) トクテイエイリカツドウホウジン ショナン NPO サポートセンター 特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター			
②所在地	〒259-1517 平塚市長持 568 番地の 5			
③ホームページ	http:// snposc.org			
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	坂田 美保子 (役職) 理事長		
	電話	(連絡可能な時間帯) 9:00~20:00		
	F A X		e-mail	
	住所	〒: 平塚市		
⑤設立年月	平成 22 年 6 月		(法人格取得年月 平成 23 年 3 月)	
⑥会員の状況	個人会員	42 人 (うち平塚市民 39 人)	団体会員	2 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>湘南 NPO サポートセンターは、「一人ひとりが自分らしく暮らせるまち」を願い、社会のために何かしたい人、市民活動・地域活動を行う人を応援することで、組織の壁・心の壁を越えて、人々がつながり共に行動する市民社会の実現をミッションとしている。(H22. 6 月任意団体として設立。H24. 3 月 NPO 法人格を取得)</p> <p>最近 5 年間の実績</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民活動・地域活動を行う市民及び団体の相談対応及びコーディネート <ul style="list-style-type: none"> 市民活動情報交流サロン活動 (H23 年 1 月~H26 年 6 月: 約 2 年 6 か月) 来所人数 (H25 年 4 月~H26 年 3 月までの 1 年間: 318 名 (月平均 26, 5 名 開所日数述べ 96 日) 相談件数 172 件 ※参考: ひらつか市民活動センターの相談件数は、平成 26 年度: 169 件、平成 27 年度: 171 件 (年末年始を除き開設) 2. 協働のまちづくり推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 交流カフェ「協働を語ろう」開催 参加者: 15 名 「市民自治と新しい公共ーまちづくりと市民のちから」講演会参加者: 89 名 対話による協働のまちづくり座談会: 参加人数: 48 名 2. 市民活動・地域活動の情報発信 <ul style="list-style-type: none"> 情報誌 LIAISON (市民をつなぐ) の発行 NO. 9 迄発行 各 1500 部 WEB 発信: HP・ブログの活用 「ひらつか元気地域づくり事例集」2 号発行 H29. 8 500 部 3. 人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> 「ひらつか地域づくり市民大学」平成 25 年~ (受講者実績 400 名: 公開講座含む) 平塚市協働推進課・平塚市中央公民館・平塚市福祉総務課との協働事業 市民活動団体向け講座の開催 (会計・コミュニティビジネス・マネジメント) 4. 大学・企業・NPO とのネットワーク事業 <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学平塚地区 BBS 会との連携 吉沢寺子屋の運営事業 これまでの延べ人数: 小学生 1800 名、大学生 1200 名、地域 700 名 (吉沢寺子屋: 町内福祉村ひだまりの里の交流部会内事業、当会は企画・運営 助言・情報発信等を行う) 東海大学土木工学科梶田ゼミとの連携 (ひらつか地域づくり市民大学、ひらつか元気地域づくり事例集発行) 「ひらつかのみんなのトイレ」調査及び HP 制作と運営 (市民活動団体との連携) NPO と企業とのコラボイベント (延べ 15 団体をコーディネート) 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらつか七夕まつりブース出店 (企業・NPO 等との連携による事業 延べ 30 名によるプロジェクトチームによる運営 来場者 1000 名以上) <p>5. メディア事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動・地域活動団体のサポート事業として、チラシ・リーフレット・情報紙などの作成及びHP・ブログの作成、及び作成のための相談助言等を実施 (市民活動団体・平塚市自治会連合協議会等他多数) 		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
<p>⑨活動体制</p> <p>活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。</p>	役職等	氏名	協働事業での役割
	1. 理事長	坂田 美保子	全体統括責任者 相談業務 (協働コーディネーター)
	2. 副理事長	氏家 真美	情報収集・発信事業統括 (クリエイティブデザイナー)
	3. 理事	坂本 著法	相談業務担当 行政との協働推進及び市民活動団体ネットワーク推進
	4. 統括アドバイザー	鈴木 奏到	企画プロデュース・アドバイス (都市プランナー)
	5. 協働アドバイザー	二宮 雄岳	事業計画策定支援・経営戦略担当 (中小企業診断士)
	6. 会員	清水 浩三	情報収集・発信担当
	7. 会員	小島 成正	地域活動団体ネットワーク推進担当
	8. 会計担当	大澤 千鶴	会計担当
	9. スタッフ	大和田 マイ子	相談業務及び窓口
10. スタッフ	小西 千賀子	相談業務及び窓口	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	11,256,564円	市の支出	11,106,564円
		団体の支出（他の収入等）	150,000円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 11,106,564	ひらつか市民活動センター協働運営費
団体の支出	60,000	団体会費
事業収入	90,000	講座収入 90,000（1000×20人×3回, 500×30人×3回）
収入合計	A 11,256,564	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
人件費	8,316,000	8,316,000	常勤 240,000×12か月(1人)常勤 200,000×12か月(人)※1日7h 窓口勤務 1000×(5.75×10日+時間外5)×12か月 750,000×4人 事業運営月 2回×1000×3h×2人×6か月=36,000
法定福利費	828,564	828,564	社会保険料 797,856 35714×12か月+552×12か月=435,192(1人) 29762×12か月+460×12か月=362,664(1人) 雇用 200,000×6/1000×12か月=14,400 労災 5,436,000×3/1000=16,308
旅費交通費	492,000	492,000	常勤 400×252日=100,800、600×252日=151,200、窓口勤務 400×132日=52,800×4人=211,200 事業運営 400×2日×12か月@3名=28,800
講座費	208,000	118,000	報償費 30000×6回=180,000 チラシ印刷費 3000×6回=18,000、交通費 10,000
専門相談費	72,000	72,000	専門員謝金 1500×2h×2回×9か月=54,000 交通費 1000×月2回×9か月=18,000
調査費	36,000	36,000	渉外活動・情報収集費 500×3人×月2回×12か月
情報発信費	132,000	72,000	情報発信等チーム会議費 1000×12か月=12,000 印刷費 20000×6=120,000
研修費	49,000	49,000	10000×2人、5000×3人、2000×7人
HP制作費	1,123,000	1,123,000	HP制作一式 972000(消費税込み) 保守管理費 196,200(消費税込み)
支出合計	B 11,256,564	D 11,106,564	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は3月議会での承認により決定されます。